



みつけた!



江戸時代より続く伝統の国府市



以前は、毎月決まった日に開かれる定期市で日用品などの買い物のできたものですが、現在はそのような市が少なくなってきています。しかしそのような中、国府町の旧東海道沿いで開かれる「国府市」は、300年以上も続いていることをご存知でしょうか。

国府市は、貞享2（1685）年に三河代官であった国領半兵衛が部下の片岡丈右衛門に命じて始められたといわれています。旧東海道近くの国府観音には今も丈右衛門の供養塔があり、その前には「国府市開祖」と書かれた灯籠一対が残っています。

初めのころの国府市は、4と9がつく日の毎月6回開かれる「六斎市」だったのですが、いつのころからか正月用品などを売る「歳としの市」に変わり、現在は2月11日の建国記念の日こくりょうに開かれるようになりました。

国府市では陶器市と植木市が名物で、食べると夏病みの難を逃れるという言い伝えがある「厄除け餅」を求める方もたくさんみえます。活気あふれる国府市に、ぜひお出掛けください。

